

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 2 5

平成19年6月21日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

バツ（×）を押して「いいえ」

よく聞かれるフレーズですね。保存しないでアプリケーションを終わる場合です。

しかし、いつもこう言っていると、子どもたちはいつになっても、「センセー！ はい、ですか、いいえ、ですか？」と聞くことになります。

私はこうです。

「保存しないで、〇〇（ワード、など）を閉じる」

まず、「×」は、正しくはバツではありません。これは、アプリケーションの終了を意味するExitのXです。（Eは編集Editで使っているので使えません）バツ、ではなく、「閉じるボタン」が適切な表現です。

次に、「押す」ではなく、「クリックする（押さえたらずぐ離す）」が正しい操作です。押してしまうと、ドラッグになりかねません。もっとも、「閉じるボタン」からドラッグしても何も起こりませんが、クリックすべきところでドラッグになると、往々にして思わぬ結果を見ることになります。また、キー操作なら、押し続けると連打したのと同じになります。

そして、「はい・いいえ・キャンセル」では、作ったものが保存されていないので、アプリケーションを本当に閉じていいか、保存しなくていいのかどうか、パソコンが聞いているので、その「質問に答え」てやる必要があります。「いいえ」をクリックすることが、質問への答えであることを意識してやるかどうかは、自分の力でパソコンを操ることができるかどうかの分かれ目ですから、そのクリックの意味が分かる言い方を選びます。

低学年では、漢字が読めないし、意味も難しいかもしれませんが、パソコンでよく出てくる漢字とその文章の意味（保存、変更、など）は、早くからわかるように説明しておきたいです。

ちゃんと読めば、どれをクリックする（どう返事をする）かがわかります。

目的と、それを達成するための操作の仕方とその結果を先生だけがわかっていて、子どもたちが言われたとおりに操作するだけでは、自分でパソコンを道具として使うことはできません。目的を告げるだけで、操作がわかるようになれば、次に同じことをしようとしたときに迷うことはありませんし、先生も一つ一つの操作を事細かに言う必要もなくなります。パソコンを道具として使うという姿勢が身に付きます。

是非、子どもたちとパソコンを使うときは、できるだけ子供自身で操作を見つけられるように考えてみてください。